

CUBASE

VST

VST リモート
コントローラー

5

PC
VERSION

Steinberg

本書の記載事項は、Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンによって予告なしに変更されることがあり、同社は記載内容に対する責任を負いません。本書で取り扱われているソフトウェアは、ライセンス契約に基づいて供与されるもので、ソフトウェアの複製は、ライセンス契約の範囲内でのみ許可されます（バックアップ・コピー）。Steinberg Soft- und Hardware GmbH 社および株式会社スタインバーグ・ジャパンの書面による承諾がない限り、目的や形式の如何に関わらず、本書のいかなる部分も記録、複製、翻訳することは禁じられています。

本書に記載されている製品名および会社名は、全て各社の商標および登録商標です。

Original English Edition :
© Steinberg Soft- und Hardware GmbH, 2000.

Japanese Edition :
© Steinberg Japan Inc., 2000.
All rights reserved.

背景

VSTパラメーター（レベルフェーダー、パン、EQパラメーターなど）が、MIDIでコントロールできます。その際のセットアップについては、『詳細 - VSTミキサーのリモートコントロール』をご参照ください。

ここでは、サポートされている以下のMIDIコントロール機器の詳細が記載されています。

- CM Automation Motor Mix、[4ページ](#)を参照
- JL Cooper CS-10、[4ページ](#)を参照
- JL Cooper MCS-3000、[5ページ](#)を参照
- Roland MCR8、[6ページ](#)を参照
- Roland U-8、[7ページ](#)を参照
- Tascam US-428、[8ページ](#)を参照
- Yamaha 01V、[10ページ](#)を参照

他のMIDIコントロール機器をお持ちの場合には、それをGeneric Remoteデバイス（[11ページ](#)参照）として使用できます。

MIDIコントロール機器の特性

CM Automation Motor Mix

CM Motor Mixでは、VSTチャンネルを、8個ずつのグループでコントロールできます。

- フェーダー:ボリューム
- SoloとMute:SoloとMute
- 左右の"View"ボタン: VSTチャンネル1～8、9～16などの選択
- トップのボタン (回転ノブの上): 編集するチャンネルの選択
- フェーダーの両側にある2列のボタンは、"Device Setup"の機能を割当ててするために使用します。

"Shift"ボタンは例外で、コンピュータのキーボード上の[Shift]キーと同じ機能を持ちます。

- "Rotary"ノブは多機能で、選択された"Rotary"の設定に依存します。

以下のパラメーターは、8個の"Rotary"ノブでリモートコントロールできます。

- パン
- センド1～8
- EQの"Gain"/"Frequency"/"Q"
- 回転ノブの下にあるボタンの最初の2列も多機能で、それら2列の左右にあるボタンの状態に依存します。

"Group"ボタンには、パラメーターが割当てられていないことにご注意ください。

以下のパラメーターは、回転ノブの下、最初の列の8個のボタンでリモートコントロールできます。

- EQのバイパス
- Insertのオン/オフ

以下のパラメーターは、回転ノブの下、2番目の列の8個のボタンでリモートコントロールできます。

- Record Enableのオン/オフ
- Monitorのオン/オフ
- オートメーションWriteのオン/オフ
- オートメーションReadのオン/オフ

JL Cooper CS-10

CS-10は、32のVSTチャンネルを(8チャンネル単位で)リモートコントロールできます。CS-10のコントロールでリモートコントロールできる各チャンネルストリップのVSTパラメーターは以下の通りです。

- フェーダー:ボリューム
- SoloとMute:SoloとMute
- Sel:編集するチャンネルの選択

下記のパラメーターは、選択した個々のチャンネルごとにCS-10のダイヤルを使用してリモートコントロールできます。

ダイヤル	パラメーター
Send 1	センド1
Send 2	センド2
Pan	パン
Boost/cut	EQ1の"Gain"
Frequency	EQ1の"Frequency"
Bandwidth	EQ1の"Q"

- CS-10の1～4のファンクションキーは、VSTチャンネルの1～32を8チャンネル単位で選択するために使用します。
ファンクションキー 1ではチャンネル1～8を選択し、ファンクションキー 2ではチャンネル9～16を選択します。
 - ファンクションキーの"SHIFT"キーを押しながらフェーダーを操作すると、フェーダーのポジションが Cubase VST の現在のフェーダーレベルより上にあるか下にあるかが、フェーダーの近くの2つのインジケーターで示されます。
上のインジケーターが点灯した場合は、CS-10のフェーダーのポジションが Cubase VST のフェーダーレベルより上にあることを意味します。下のインジケーターが点灯した場合は、その逆であることを意味します。どちらのインジケーターも点灯しない場合は、フェーダーのポジションがそのチャンネルのフェーダーレベルに合っていることを意味します。
 - CS-10 のプレイバック、ストップ、レコード、巻戻し、早送りのトランスポートコントロールは、Cubase VSTのトランスポートコントロールと同じ機能になります。
-
- CS-10 は、「MIDI フィードバック機能」をサポートしており、Cubase VST のチャンネルのミュート、ソロ、選択状況を表示することができます。この機能（および前述で説明したフェーダーポジションのインジケーター表示機能）を使用するためには、CS-10と Cubase VST間の双方向のMIDI接続が必要になります。
-

JL Cooper MCS-3000

MCS-3000は、32のVSTチャンネルを（8チャンネル単位で）リモートコントロールできます。MCS-3000のコントロールでリモートコントロールできる各チャンネルストリップのVSTパラメーターは以下の通りです。

- フェーダー :ボリューム
- Soloと Mute: SoloとMute

- Sel:編集するチャンネルの選択

下記のパラメーターは、選択した個々のチャンネルごとに MCS-3000 のダイヤルを使用し、Page1 ～ 4 を切り替えることによってリモートコントロールできます。

Page 1		Page 2	
ダイヤル	パラメーター	ダイヤル	パラメーター
1	パン	1	EQ1の"Gain"
2	センド1	2	EQ1の"Frequency"
3	センド2	3	EQ1の"Q"
4	センド3		
5	センド4		

Page3		Page4	
ダイヤル	パラメーター	ダイヤル	パラメーター
1	EQ2の"Gain"	1	EQ3の"Gain"
2	EQ2の"Frequency"	2	EQ3の"Frequency"
3	EQ2の"Q"	3	EQ3の"Q"

- MCS-3000の1～4のファンクションキーは、VSTチャンネルの1～32を8チャンネル単位で選択するために使用します。
ファンクションキー 1ではチャンネル1～8を選択し、ファンクションキー 2ではチャンネル9～16を選択します。
- MCS-3000の"Set Locate"キーは、マーカーを作成するために使用します。マーカーIDを入力し、"Return"キーを押してください。
- MCS-3000の"Locate"キーは、マーカーポイントヘロケーターを移動するために使用します。マーカー IDを入力し、"Return"キーを押してください。
- MCS-3000 のプレイバック、ストップ、レコード、巻戻し、早送りのトランスポートコントロールは、Cubase VSTのトランスポートコントロールと同じ機能になります。
- MCS-3000 は「MIDI フィードバック機能」をサポートしており、フェーダーの設定、チャンネルのミュート、ソロ、選択状況を表示することができます。この機能を使用するためには、MCS-3000とCubase VST間の双方向のMIDI接続が必要になります。

Roland MCR-8

- リモートコントロールの操作を行うためには、MCR-8のModeスイッチを「4」に設定しておく必要があります。

Roland MCR-8は、16のVSTチャンネルとトランスポートコントロールをコントロールできます。A/Bスイッチを使用して、コントロールするチャンネル1～8と9～16を切り替えます。以下のMCR-8のパラメーターで、対応する各チャンネルストリップのVSTパラメーターをコントロールします。

- フェーダー、パン、Mute、Solo

以下のMCR-8のトランスポートコントロールで、対応するCubase VSTのトランスポートコントロール機能をコントロールします。

- プレイバック、ストップ、レコード、巻戻し、早送り

-
- MCR-8は「MIDIフィードバック機能」をサポートしていないため、VSTパラメーターの現在の状態を表示することはできません。したがって、MCR-8とCubase VSTとを双方向でMIDI接続する必要はありません。
-

Roland U-8

U-8は、最大で8個のVSTチャンネルと、16個のMIDIトラックミキサーをコントロールできます。さらに、U-8内部オーディオプロセッサもコントロールできます。

-
- U-8ミキサーの詳細については、U-8の取扱説明書をご覧ください。
-

- U-8ミキサーをコントロールする際は、U-8ミキサーのウィンドウを、表に表示することで、可能となります。

U-8ミキサーウィンドウを開くためには、U-8上の"Mixer"ボタンをクリックしてください。

U-8ミキサーウィンドウが閉じられている場合には、U-8は、個々のチャンネルについて、以下のVSTミキサーとMIDIトラックミキサーのパラメーターをリモートコントロールします。

- フェーダー: ボリューム (VSTミキサーとMIDIトラックミキサー共用)
- Track Status: エディット用のVSTチャンネルを選択します。
- Mixer Dial 1: パン
- Mixer Dial 2: センド1
- Mixer Dial 3: EQ1の"Gain" ("U-8 Shift" キーを押して操作すると、EQ1の"Frequency"をコントロール可能)
- Mixer Dial 3: EQ2の"Gain" ("U-8 Shift" キーを押して操作すると、EQ2の"Frequency"をコントロール可能)
- "U-8 Transport" キーは、Cubase VSTのトランスポートコントロールと同じ機能になります。
- "Locator" キーを押しながら "Set" ボタンを押すと、マーカーを設定することができます。
- "Time/Value" ホイールは、"Position-Shuttle" として使用します。
- "Loop" ボタンは、サイクルのオン/オフをコントロールするために使用します。
- "Auto Punch" ボタンは、パンチインのオン/オフをコントロールするために使用します。

- U-8は「MIDIフィードバック機能」をサポートしており、選択項目と"Transport"の状態をパネル上に示すことができます。この機能を使用するためには、入力を "U-8 Control In"ポート、出力を"U-8 Control Out"ポートにしなければなりません。

Tascam US-428

US-428は最大で64個のVSTチャンネル、64個のMIDIトラックミキサー、および（インストールされていれば）1つか2つのDSP-Factoryカードをコントロールできます。

- "オプション（Options）"メニューの"リモート コントロールの設定（Remote Setup）"サブメニューの"全般（Setup）"ダイアログで"リモート（Remote）"欄から"Tascam US-428"を選択し、"OK"ボタンをクリックすると、リモートステータスウィンドウが表示されます。

これは、どのバンク（Cubase VST の 8 個のチャンネルのグループ）が、現在リモートデバイスによってコントロールされているのかを示します。別のバンクを選択するためには、ウィンドウの中のポップアップメニューを使うか、リモートデバイス上の"Bank Left/Right" ボタンを使ってください。



リモートステータスウィンドウ

- "US-428 Transport" キーは、Cubase VSTのトランスポートコントロールと同じ機能になります。
- "Locator" キーを押しながら"Set" ボタンを押すと、マーカーを設定することができます。
- ファンクションキー"Null"ボタンを押し、それからフェーダーを動かすと、フェーダーの上の"Select"と"Rec"のインジケータは、フェーダーの位置が現在のCubase VSTのフェーダーレベルの上か下かを示します。

上のインジケータが点灯した場合は、US-428 のフェーダーのポジションがCubase VST のフェーダーレベルより上にあることを意味します。下のインジケータが点灯した場合は、その逆であることを意味します。どちらのインジケータも点灯しない場合は、フェーダーのポジションがそのチャンネルのフェーダーレベルに合っていることを意味します。

- US-428は「MIDIフィードバック機能」をサポートしており、フェーダーの設定、チャンネルのミュート、ソロ、チャンネルの選択状況、EQ の設定、Aux1 ～ 4、トランスポートパーの状態を表示することができます。この機能を使用するためには、入出力に"US-428 Control"ポートを選択しなければなりません。

VST Channel Mixer

以下のUS-428のコントロールは、各チャンネルで、以下のVSTパラメーターをリモートコントロールします。

- フェーダー : ボリューム

- SoloとMute:SoloとMute（"Solo"スイッチで選択）
- Select:編集するチャンネルの選択
- パンダイアル:パン
- EQの"Gain"
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドの"EQ Gain"をコントロールするために使用します。一番左のバンドから始まって、VSTミキサーの4つのEQバンドに対応します。
- EQの"Freq"
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドの"EQ Freq"をコントロールするために使用します。一番左のバンドから始まって、VSTミキサーの4つのEQバンドに対応します。
- EQの"Q"
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドのEQ"Q"をコントロールするために使用します。一番左のバンドから始まって、VST ミキサーの4つのEQバンドに対応します。
- Aux1～4の"Shuttle"ホイール
センド1～4のレベル調整を行うために使用します。
- "Shuttle"ホイールは、"Aux send"ボタンが選択されていない場合、"Position Shuttle"として機能します。
選択を解除するためには、"Aux send"ボタンを押してください。
- "Asgn" ボタンを押しながら、"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンを押すと、対応するEQバンドの"ON"ボタンのオン/オフを切り換えます。
- "Asgn" ボタンを押しながら、"Aux1" から"Aux4"までの各ボタンを押すと、対応するセンド1～4の"ON"ボタンのオン/オフを切り換えます。

MIDIトラックミキサーチャンネル

MIDIトラックミキサーチャンネルは、リモートステータスウィンドウのポップアップメニューに表示される名称が"CTM..."となっています。以下のUS-428のコントロールは、各チャンネルで、以下のCTMパラメーターをリモートコントロールします。

- フェーダー:ボリューム
- SoloとMute:SoloとMute（"Solo"スイッチで選択）
- Select:編集するチャンネルの選択
- パンダイアル:パン

DSP Factory

以下のUS-428のコントロールは、各チャンネルで、以下のDSP Factoryパラメーターをリモートコントロールします。

- フェーダー:ボリューム
- SoloとMute:SoloとMute（"Solo"スイッチで選択）
- Select:編集するチャンネルの選択

- パンダイアル:パン
- EQ-"Gain"
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドの"EQ Gain"をコントロールするために使用します。
- EQ-Freq
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドの"EQ Freq"をコントロールするために使用します。
- EQ-"Q"
"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンで選択した、個々のバンドのEQ "Q"をコントロールするために使用します。
- Aux1～4の"Shuttle"ホイール
Send1/2とSend5/6のレベル調整を行うために使用します。
- "Asgn" ボタンを押しながら、"Low"、"LoMid"、"HiMid"、および"High"の各ボタンを押すと、対応するEQバンドの"Bypass" ボタンのオン/オフを切り換えます。
- "Asgn"ボタンを押しながら、"Aux1"から"Aux4"までの各ボタンを押すと、対応するセンド1/2とセンド5/6の"ON"ボタンのオン/オフを切り換えます。

Yamaha 01V

Yamaha 01Vは、VSTミキサー、またはCubase VST/24でDSP Factoryを使用している場合はDSP Factoryミキサーをリモートコントロールできます（詳細については、『詳細 - DSP Factory との使用』をご参照ください）。リモートコントロールの操作を行う際には、あらかじめ01Vを以下のように設定しておく必要があります。

- MIDIパラメーターの変更と受信が可能な状態にする。
- MIDIコントロールの変更と受信が可能な状態にする。
- デバイスID/受信MIDIチャンネルを"1"に設定する。
- ローカルコントロールをオフに設定する。

ローカルコントロールをオフに設定すると同時に、VST ミキサーのリモートコントロールがオンになります。

01Vミキサーには、ほぼすべてのVSTパラメーターに相当するパラメーターコントローラーが存在するため、Cubase VSTのチャンネルミキサーをきわめて直線的にリモートコントロールできます。コントロール可能なパラメーターの現在の状態は01Vにフィードバックされ、モーターフェーダーやインジケーターなどを通じて表示されます（この機能を使用するためには、01VとCubase VST間の双方向のMIDI接続が必要です）。

32チャンネルをリモートコントロールするためには、2種類のコントロールレイアウトを使用し、それぞれのレイアウトで16チャンネルをコントロールします。01VのMEMORYボタンを使用して、VSTのレイアウト1とレイアウト2を切り替えます（DSP Factory用にも2つのレイアウトがあります。詳細については、『詳細 - DSP Factory との使用』をご参照ください）。ページ1はVSTミキサー1の表示、ページ2はVSTミキサー2の表示、ページ3はDSP Factoryミキサー1の表示、ページ4はDSP Factoryミキサー2の表示をします。

- 01Vのパラメーターの値の範囲は、対応する VST パラメーターの値の範囲と常に一致するとは限りません。

VST ミキサーのチャンネル1～32に対する以下のパラメーターが、リモートコントロールできます。

- フェーダー、パン、Mute
01Vのこれらに対応するパラメーターのコントロールで、VST パラメーターをコントロールします。
- センド1～6
01Vの"AUX"1～4のコントロールでVSTミキサーのセンド1～4をコントロールし、01Vの"EFFECT"1と2のコントロールでVST ミキサーのセンド5と6をコントロールします。
- EQの"Gain"、"Frequency"、"Q"（4バンド）
01Vのこれらに対応するパラメーターのコントロールで、VST パラメーターをコントロールします。
- ステレオマスターのボリューム
01Vのこれらに対応するパラメーターのコントロールで、VST パラメーターをコントロールします。
- センドエフェクトの"Effects Master"1～4は、01Vの"AUX"1～4のマスターによってコントロールされます。センドエフェクトの"Effects Master"5と6は、01Vの"EFFECT"1と2のマスターによってコントロールされます。

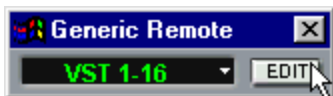
01Vのレイアウト1のコントロールは、以下のVSTチャンネルをコントロールします。
 - 01Vのチャンネル1～12,13/14,15/16で、VSTチャンネル1～14をコントロールします。
 - 01Vの"RETURN"1と2で、VSTチャンネル15と16をコントロールします。
01Vのレイアウト2のコントロールは、以下のVSTチャンネルをコントロールします。
 - 01Vのチャンネル1～12,13/14,15/16で、VSTチャンネル17～30をコントロールします。
 - 01Vの"RETURN"1と2で、VSTチャンネル31と32をコントロールします。

Generic Remoteデバイス

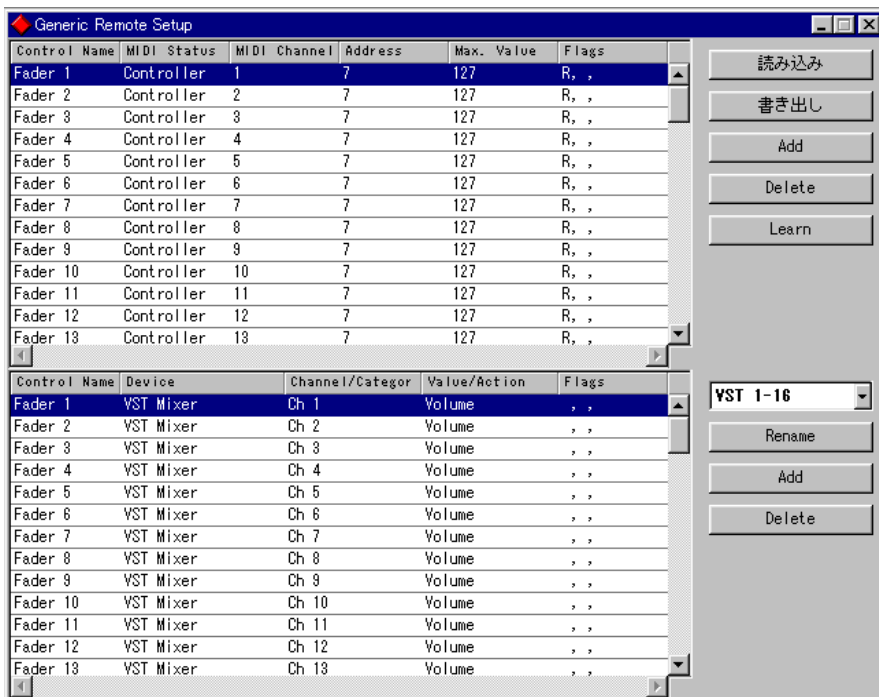
Generic Remote デバイスは、Steinberg が特にサポートしない、MIDIコントロール機器に使用できます。それらは、Generic MIDIコントロール機器と呼ばれます。

Generic MIDIコントロール機器があれば、Generic Remoteデバイスをセットアップすることによって、それをCubase VSTのリモートコントロールに使用できます。

1. "オプション（Options）"メニューの"リモート コントロールの設定（Remote Setup）"サブメニューの"全般（Setup）"を選択します。
2. "リモート（Remote）"欄のポップアップメニューから"Generic Remote"選択し、"OK"ボタンをクリックします。



- 表示されるリモートバンクセレクトウィンドウで、"EDIT"ボタンをクリックします。
Generic Remote セットアップウィンドウが表示されます。そこで、デバイスのどのコントロールが、Cubase VST内のどのパラメーターをコントロールするかを指定します。



- バンクを選択するために、右側のポップアップメニューを使用します。
バンクの概念は、ほとんどすべてのMIDI機器が、一度にコントロールできるチャンネルの数が限定されている（8か16が多い）という単純な事実に基づいています。たとえば、MIDIコントロール機器に16の音量フェーダーがあり、Cubase VSTで32のオーディオチャンネルを使っている場合には、16チャンネルのバンクが2つ必要になります。最初のバンクを選択すると、チャンネル1～16をコントロールし、2番目のバンクを選択すると、チャンネル17～32をコントロールします。MIDIトラックミキサーとトランスポートもコントロールできるので、複数のバンクが必要になるかもしれません。

5. MIDI コントロール機器のコントロールに従って、Generic Remote セットアップウィンドウで設定します。

各欄には、下記の機能があります。

欄	説明
Control Name	この欄をダブルクリックすると、コントロールの名称を入力することができます（コンソール上に書かれている名称を入力することをお勧めします）。この名称は、下のウィンドウの "Control Name" 欄に、自動的に反映されます。
MIDI Status	この欄をクリックすると、MIDI コントロール機器が送る MIDI メッセージのタイプを指定するポップアップメニューが表示されます。選択内容は、"Controller"、"Prg.Change"、"Aftertouch"、"Poly Pressure"、"Note-On"、"Note-Off" です。使用可能なコントロールメッセージを拡大するための "Ctrl-NRPN" と "Ctrl-RPN" も使用できます。"Ctrl-JLCooper" は "Controller" の特殊なバージョンで、MIDI メッセージの 2 番目ではなく、3 番目のバイトがアドレスとして使用されます（さまざまな JL-Cooper でサポートされる方法）。
MIDI Channel	この欄をクリックすると、MIDI メッセージを送信する MIDI チャンネルを指定するポップアップメニューが表示されます。
Address	"Controller" ナンバー、あるいは "Ctrl-NRPN"、"Ctrl-RPN" のアドレス。
Max. Value	MIDI コントロール機器が送信する最大の値。この値は、MIDI コントロール機器の値の範囲をプログラムパラメーターの値の範囲に合わせるために、プログラムが使用します。
Flags	この欄をクリックすると、3 つのフラグを有効、もしくは無効にするポップアップメニューが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">Receive - 受け取った MIDI メッセージを処理する場合には、これを有効にしてください。Transmit - プログラム内の対応する値が変更されたときに、MIDI メッセージを送信する場合には、これを有効にしてください。Relative - コントロールが、絶対値のかわりに回転の数を知らせる、「無限の」ダイヤルである場合には、これを有効にしてください。

- 上のウィンドウにコントロールが多すぎるか、少なすぎると思われる場合には、上のウィンドウの右にある "Add" ボタンと "Delete" ボタンで、コントロールを増減できます。
- MIDI コントロール機器が、どの MIDI メッセージを送るのか確かでない場合は、"Learn" 機能を使用することができます。

（"Control Name" 欄の中をクリックして、）上のウィンドウのコントロールを選択し MIDI コントロール機器のパラメーターを動かして、ウィンドウの右の "Learn" ボタンをクリックしてください。"MIDI Status"、"MIDI Channel"、および "Address" の値が、自動的に設定されます。

6. 下のウィンドウを使って、どの Cubase VST のパラメーターをコントロールするかを指定します。

ウィンドウ内の各列は、上のウィンドウ内の、対応する列のパラメーターに関連付けられています。このことは、"Control Name" 欄に示されています。各欄には、下記の機能があります。

欄	説明
Device	この欄をクリックすると、Cubase VSTのどの「デバイス」をコントロールするかを決めるために使うポップアップメニューが表示されます。 "Transport"、"VST Mixer"、または "CTM Mixer"（MIDI トラック）。特殊な "Command" を使うと、特定のコマンドアクションをリモートコントロールで実行できます。リモートバンクの選択などが、その例です。 "Yamaha DSP Factory" カードをインストールしている場合には、それもオプションとして "Device" ポップアップメニューに表示されます。
Channel/Category	ここで、コントロールされるチャンネルを選択するか、または、"Device" で "Command" が選択されている場合には、"Command" カテゴリーを選択します。
Value/Action	この欄をクリックすると、コントロールされるチャンネルのパラメーターを選択することができるポップアップメニューが表示されます（"Device" で "VST Mixer" が選択されると、"Volume"、"Pan"、"Send levels"、"EQ" などから、選ぶことができます）。 "Device" で "Command" が選択されている場合には、カテゴリーの "Action" を選択します。
Flags	この欄をクリックすると、3 つのフラグを有効、もしくは無効にすることができるポップアップメニューが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">• Push Button - これを有効にすると、受信した MIDI メッセージが 0 ではない値を示す場合にのみ、パラメーターが変更されます。• Toggle - これを有効にすると、MIDI メッセージを受け取るたびに、最小値と最大値の間で切り換えられます。"Push Button" と "Toggle" を組み合わせると、ボタンの状態をラッチしないリモートコントロールで便利です。"Mute" ボタンを押すと "Mute" 状態がオンになり、離すとオフになる "Mute" のコントロールが一例です。"Push Button" と "Toggle" が有効である場合は、コンソール上でボタンを押すたびに、"Mute" 状態がオンとオフの間で切り換えられます。• Not Automated - これを有効にすると、パラメーターは自動化されません。

7. 必要に応じて、別のバンクを選択し、設定を行います。

そのためには、下のウィンドウ内の設定のみを行えばよいことにご注意ください。
上のウィンドウは、すでにMIDIコントロール機器に従って、設定されています。

- 必要に応じて、下のウィンドウの"Add"ボタンをクリックして、バンクを追加してください。

"Rename" ボタンをクリックすると、現在選択されているバンクに新しい名称を割り当てることができ、不必要なバンクを選択して、"Delete" ボタンをクリックすると、そのバンクを削除することができます。

8. 終了後、Generic Remoteセットアップウィンドウを閉じます。

MIDIコントロール機器から、指定されたCubase VSTパラメーターをコントロールすることができます。別のバンクを選択するためには、リモートステータスウィンドウの中のポップアップメニューを使用してください（または、MIDI リモート上のコントロールが割当てられていれば、それを使ってください）。

リモートセットアップの読み込みと書き出し

Generic Remoteセットアップウィンドウの右上の隅にある"書き出し（Export）"ボタンを使うと、コントロールの設定（上のウィンドウ）とすべてのバンクを含む、現在のセットアップを書き出すことができます。セットアップは、".xml"という拡張子を持つファイルに保存されます。"読み込み（Import）"ボタンをクリックすると、保存したリモートセットアップファイルを読み込むことができます。

- 最後に読み込み、もしくはエクスポートされたリモートセットアップは、プログラムが開始するか、"VST リモート（VST Remote）"ダイアログ内で"Generic Remote"が選択された場合に、自動的に読み込まれます。

